

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



菅野 小百合さん(白石)

帰村後の学校がどうなるかで住居を決めかねています。来年中学生になる子どもは転校したくないと言っていて、自分も村内で仕事をしているので、我が家では、学校が村に戻るなら村へ、仮設校舎が続くならその方向でと考えています。

村内での学校再開の具体的な時期は未定ですが、帰村後の新年度4月から再開することを視野に入れております。今後、保護者の皆さんや地域の皆さんのご意見をお聞きする「学校再開等検討委員会(仮称)」などで協議をいただく予定です。

村立学校への通学を前向きに検討いただいていることは、村としても心強く感じています。今後も、帰村に向けた取り組みと合わせて、決定事項については速やかに村民の皆さんにお知らせしてまいります。

なお一方、子育て支援センター「すくすく」は福島市で、「やまゆり保育所」は川俣町で、仮施設を当面継続して運営する方向で、検討が進められています。



青山 美和子さん(草野)

早く帰還の目途が立てばと思っています。帰還となれば、ばあちゃんが元気なうちに、避難にまつわるわずらわしさのない村でせいせいと暮らしたいと思っています。帰還時期の目途はいつごろ分かるのでしょうか。

今年の6月、国は、居住制限区域と避難指示解除準備区域の避難指示を、遅くとも平成29年3月までに解除し、帰還を可能にするよう復旧などの加速に取り組む方針を発表しました。村も、この方針を念頭に、帰村時期の検討を行ってまいります。

早速8月末から9月初旬にかけては、国の復興指針の改定について情報を共有し、帰村に向けての課題について意見を聞くために、方部ごとの懇談会を開いたところ。また、間もなく始まる村議会9月定例会でも議論を深め、できる限り早い時期に、村民の皆さんに方向性をお知らせできるようにしたいと、村では考えています。

また、帰村に向けては、除染はもちろん、日常の買い物や医療体制など、戻られる皆さんの生活に不自由がないよう、村内の再整備が欠かせません。さらに、帰還困難区域の方などで、すぐには自宅に戻れないが村内で暮らしたいという方が居住できる住宅の検討も行っています。帰村を考えておられる皆さんのご要望など、引き続きお寄せください。

いいたて 歳時記

ならわしや季節のあれこれ

その⑤

地鎮祭と建前

家を新築する時や、木を切ったり地ならししたりする時に、安全祈願として、その土地の神を鎮め土地を利用することの許しを得る「地鎮祭」を行います。四方の角に竹を立て、縄でつないで囲み、酒・魚・塩・水・米などを供えて、宮司や住職に祈禱してもらいます。それが家の新築の場合には、親戚や隣組が集まり、「土搗き」をして地固めをします。終わった後は、使用した竹などを、氏神様の近くの木に納めていました。

また、「建前」では、五色の旗・化粧道具・酒・塩・魚・野菜・水などを奉納し、隅を固める意味で、隅に大きな隅餅をおきました。大根を食べると胸焼けしないことから、ひいては「棟焼けしない」火伏として大根を餅と一緒にまきました。引き出物には手ぬぐいが多く使われました。新築の時には、田植え踊りや神楽などを踊ってもらっていました。

参考:「おばあちゃん、おじいちゃんの知恵袋」村教育委員会発行



結婚おめでとう

| 氏名 | 出身地 |
|--------|--------|
| 高橋 彰 | 草野 |
| 菅野 祐梨奈 | 伊達郡川俣町 |
| 大東 啓史 | 宮内 |
| 菅野 裕美 | 伊達郡川俣町 |
| 古川 和也 | 飯樋町 |
| 酒井 瑞穂 | 神奈川県 |

いつまでもお幸せに

誕生おめでとう

| 赤ちゃんの名前 | 親の氏名 | 行政区 |
|----------|-------|-----|
| 高橋 結愛ちゃん | 和也・早紀 | 上飯樋 |
| 菅野 彩花ちゃん | 仁・千春 | 比曾 |

すくすくと元気に育ってね

おくやみ

| 氏名 | 年齢 | 行政区 |
|--------|----|-----|
| 渡邊 コウ | 94 | 伊丹沢 |
| 竹田 アキヨ | 93 | 伊丹沢 |
| 佐藤 ヨネ | 92 | 前田 |
| 高橋 フクイ | 91 | 小宮 |
| 大渡 キミ子 | 81 | 深谷 |

ご冥福をお祈り申し上げます
(7月21日から8月20日までに届け出のあったものを掲載)
*この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

「暑い、暑い」と下を向きながら歩くことが多かった今年の夏。暑さの中でも元気なのは、村の子どもたち。夏休み中もキャンプに合宿、学習会と毎日のように行事がありました。どの子も楽しい夏の思い出ができたことでしょう。一方、道路わきの田んぼに目を移してみれば、実るほど頭を垂れる稲穂の姿がありました。暑さ厳しい夏を耐え、実りの秋を待っているかのようです。▼平成9年に発行された村政要覧・村合併40周年誌「田園の詩人」の表紙には、震災前の村内で黄金に光輝く稲穂とひとりの少年が写されています。その横には「田園に暮らし、夢を咲かせるむら」の言葉が添えられています。帰村に向けて歩みを進めている村。復興の花が咲き、あの風景が村に戻るその日を願って (木幡)